

# 令和4年度第1回 甲賀市地域福祉計画審議会 会議録

日 時 令和5年2月20日（月）

午後3時00分から午後3時30分

場 所 甲賀市役所3階 301会議室

## 1 開会

○市民憲章唱和

## 2 会長挨拶

## 3 協議事項

(1) 第2次甲賀市地域福祉計画の取組結果の報告 . . . . . 資料1

(2) 包括的な支援体制の整備について . . . . . 資料2

(3) 地域福祉に関する活動への住民参加の促進について . . . . . 資料3

## 4 副会長挨拶

## 5 閉会

## 1 開会

○市民憲章唱和 《省略》

○会議資料の確認

### 【事務局】

事務局より資料確認

### 【事務局】

甲賀市附属機関の会議の公開等に関する指針の第3条により本審議会は原則公開でありますことから傍聴を受け付けております。また、議事録につきまして、後日甲賀市のホームページにて公開します。

○会議の成立要件

### 【事務局】

会議の成立について、事務局から報告させていただきます。本審議会規則第3条第2項では、「審議会の会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない」とされております。本日の審議会には、委員総数14人中10人の過半数の委員の皆様にご出席をいただいております。会議開催の要件を満たしていることを報告します。

なお、4名の委員には事前に欠席のご連絡をいただいておりますことも併せて報告いたします。

本審議会の規則第3条第1項では、会長が議長となることと規定しておりますので、これからの議事につきましては、会長に進行をお願いします。また、健康福祉部長につきましても、本日出席予定でしたが、議会中のため欠席となりますのでお願いします。

## 2 会長挨拶

## 3 協議事項

### (1) 第2次甲賀市地域福祉計画の取組結果の報告

事務局より資料1により説明後、意見交換

### 【会 長】

資料1の20ページにある再犯防止施策の推進の取組結果の中に、民間賃貸住宅家賃補助にかかる再発防止対策対象者の申込みがなかったとのことですが、その理由はどのようなものか教えてください。

【事務局】

住宅建築課より、再犯者の方の申し込みはなかったと伺っております。この再犯防止計画を地域福祉計画に内包したことにより、今後、低所得世帯等と同様に、再犯者の方も優先入居者の対象として選考させていただくことになっています。

【会 長】

再犯防止ということで、再犯の方にこのような情報が届くのでしょうか。

【事務局】

広報紙には掲載しておりませんが、市営住宅入居の取扱要領に明記しています。

【委 員】

再犯防止対象者の定義はありますか。

【事務局】

罪を犯した方、罪を犯し保護観察が付き、保護司の保護のとともに生活されている方と伺っています。

【委 員】

保護司の監督が外れた方は対象から外れるという理解でよろしいですか。

【事務局】

監督が外れても犯罪の経歴があれば対象とさせていただきたいと思っています。

【会 長】

保護司の方なども含めて関係者に今のような情報が行き届くようにしていただければという意味を含めて先ほど質問させていただきました。

【事務局】

保護司の方もそのように感じておられますので、常に連携を取り連絡等行っていきます。

【委 員】

保護司と連絡を取っておられるとのことですが、全ての保護司にその情報が行き渡っていますか。

【事務局】

このような市営住宅の優先的制度があることは、保護司会の方にお伝えしております。

【委 員】

再犯者の支援について、今までどのような事例を取り上げてこられたのか、教えてください。そのような情報を必要としている保護司もいるのではないかと思います。

【事務局】

現段階では地域福祉計画に内包して再犯防止に取り組んでいくことの位置づけをまず示したということに大きな価値があると考えておりまして、内包して以降まだ1件です。

再犯者1人の困りごとを多機関協働事業の支援会議で、その人を取り巻く関係者に集まっていただき検討しております。事例につきまして詳細はお伝え出来ませんが、地域定着支援センター（県内にある再犯者、罪を犯した方がどう地域に定着していくかを支援する機関）の担当者に支援会議に参加いただき検討することで再び地域で住むことができるようになりました。今後こういう1人の困りごとに対して、関係する機関を増やしながら、それを仕組みにまで押し上げていくようなプロセスが歩めたらと考えています。

【委 員】

そういうことが出来たらいいなと思って聞いております。

【委 員】

取組結果ですが、最近では孤立孤独問題やヤングケアラーの問題が社会問題として出てきましたが、この取組の中でその取組はどこに該当しますか。また、担当課など教えていただきたい。

【事務局】

国から「誰一人とり残さない地域共生社会の実現をめざしている」重層的支援体制整備事業の取組自身が、この孤独孤立対策とも大きく重なっているとご理解ください。

【委 員】

市民ボランティア活動の促進に力を入れていると聞きましたが、外部団体も含めて、社会活動している団体のなり手、役員のなり手が無い。また組織参加者の高齢化に伴い、後継者がいないことで組織が弱体化しつつある。各自治体が自治振興会も含めて希望に合うボランティアを配置しながら底上げを図っていただき、参加する人を連続して入れていただきながら組織強化を図っていかないといけない。そうでなければ組織が無くなっていくと思います。その辺はどのように考えていますか。

【事務局】

ご指摘の内容について、担い手不足、特に若手の担い手不足は大きな課題です。またそれがボランティア等の不足にもなっていると思います。大きくは少子高齢化の中で更に人口減少が進んでいる状況において、どのように住民参加・担い手を増やしていくかというあたりは、次の審議事項3で説明をさせていただきます。

【委員】

重層的支援体制整備事業の①の包括的相談事業というのは、これは概念的なもので、特に新しい窓口だとか、スペシャリストを置いたわけではなくて、今まで通りの相談窓口に加えて、各課が相談窓口であって、その上で相談を受けるところで重層的に意識しながら⑤の多機関協働事業に繋いでいくもの、という理解でよろしいですか。

【事務局】

その理解で合っています。重層的支援体制整備事業は、重要なポイントとして既にある機能・力を使っていくという特徴がありますので、分野をまたいだ相談であっても、どこかがしっかりとキャッチする、分野の隙間にある例えばひきこもりという課題についてもキャッチをしていくという意識で取り組んでいる事業です。

【委員】

資料1の23ページ、アウトリーチを通じた継続的支援事業ということで、複雑化・複合化した課題を抱えているために、必要な支援が届いていない方へ支援を届けるための事業を進めてもらえると嬉しいなと思います。自分から発信しない人がたくさんいらっしゃるので、アウトリーチは重要だと思っております。このようなことをボランティアでやっていますので、相談するところが見つからない、対象の人の家がそれを欲しない、家に入ってもらいたくないなどがあり、受けられる支援を受けられてない等の具体的事例をお聞きしたいと思います。資料最後の取組の結果には、支援会議によりアウトリーチを通じた継続的支援が必要な対象への訪問を実施するもプランの作成はなし、と書いてありますが、それはなぜだったのか、対象者の人が拒絶したのか、その壁を知りたくて今後の参考にしたいです。

【事務局】

アウトリーチを通じた継続的支援事業は非常に難しい事業です。まず自分から発信しない人とできない人がいるということ、支援が得られることに拒否感を持っている方、自分が生活に困っている・生きづらさを抱えている自覚を持っておられない方がいらっしゃいます。

SOS が発信できない方に手を伸ばして困りごとをキャッチしていくというのがアウトリーチですが、情報発信できない方の情報をどう入手していくか、詳細は次の審議事項で説明

しますが、1点はアンケートを取ったことです。もう1点はアウトリーチが必要な対象者を、ひきこもりを中心に1人の困り事からケースを積み上げていくことを次年度は考えておりますので、甲賀市のひきこもり支援も重点的に取り組んでいく、またひきこもりでない方に対しての仕組みにも使えるのではないかという考えもありますので、審議事項の3でも触れさせていただきます。

#### 【委 員】

我々民生委員・児童委員がこういう人たちにどのような形で入り込むか、入ってきてくださいという方であればいいのですが、そうでない方にはやはり距離を置いた中で静かに見守る。先程も少しふれましたが、ヤングケアラーの場合は学校に行けない、友達と遊べない、学習も十分できない、こういうことがどのようにすれば表に出てくるのか。みなさんで知恵を出し合った中でこの重層的支援あるいは共生社会を作り上げていくのが大事なのではと感じます。特にヤングケアラーやひきこもりについては核家族が浸透し、子供が親や兄弟の世話を見ることがあり、これからの大きなテーマとして、生活の中に取り組んでいければと思っています。

#### 【会 長】

長く難しいケースですから少し専門的な対応も含めてこれから検討していかなくはならないと思います。続けて審議事項は(2)の行革の包括的な支援体制の整備について事務局から説明をお願いします。

#### (2)包括的な支援体制の整備について

事務局より資料2により説明後、意見交換

#### 【委 員】

4月から国の方針として、こども家庭庁が設置されます。それが運用されるとそれぞれの市区町村にこども家庭センターを設置せよとなっております。そのようなことであれば、重層的にこの策定方針の中にもこれを取り入れ、国の方針、県の方針等も出ていると思いますが、我々民生委員・児童委員代表は聞いておりますので、その辺のところを取り入れた中でやっていただければいいかなと思っています。

#### 【事務局】

こども家庭庁について、子ども子育て応援団計画の中にもその辺りは入ってくると思いますので、重層の部分としっかり合わせながら、連携を十分とりながら、この子ども計画と地域福祉計画とうまく連動するように作成をしていきたいと思っています。

### 【委 員】

先ほど意識醸成の話が出ましたが、重層的支援体制事業が動き出して仕組みも整い充実してくる中で、一番大事なのは意識の部分だと思います。それについてはこの1年間取り組みられて変わった点、今後も進めていくにあたり、行政の発想転換というか縦割りから横串を刺すという、完全に考え方を変えないとこの事業が進んでいけないと思うのですが、そこについては計画に盛り込まれるのか、計画にはないけれど取組みを進めていくのか、その辺りを教えてください。

### 【事務局】

今ご指摘いただいたことが一番重要で、かつ、もっと難しい内容なのですが、意識醸成という、要はみんなが我が事になるような意識という辺りで言いますと、庁内連携につきましては、甲賀市は地域共生社会推進本部の本部長が市長となっておりますので、市長から政策的な重点的な取り組み「トップダウン」として、地域共生社会を目指す重層的支援整備事業を全体でやるのだということを示していただきながら庁内の連携を図っていきたいと考えております。

庁外連携につきましては、先ほどとは逆で「ボトムアップ」住民の興味・関心を行政が応援をするという形で促進をしていくということがテーマになってくると思います。その「トップダウン」「ボトムアップ」をうまく調整をしながら二つの協働を進めていくという予定でございます。

### 【会 長】

それでは審議事項(3)の地域福祉に関する活動への住民参加の促進について説明をお願いします。

#### (3) 地域福祉に関する活動への住民参加の促進について

事務局より資料3により説明後、意見交換

### 【委 員】

昨年言語条例が策定されて採決されました。また、障害者差別解消法が施行されましたが、いろんな形で差別の対象になるような事例が発生しております。一般の方々には「合理的配慮」についてなかなか理解していただけないと思うことがありますので、各町で部長さんを通じてパンフレットを用いて連絡会議をしていただきたいと思います。

また、甲賀市になる前に、福祉基金というものがありませんでした。現在基金が残っている甲賀町では、ご近所福祉事業に使うため、昨年度から募集を始めました。ご近所福祉を中心に基金を利用しながら皆様方と一緒に支え合い、市民活動をやっていこうと思っております。

【事務局】

ご説明しました活動は、今年度できた活動の一部で、各地域で多様な活動があると思っています。今後その活動と活動団体がコラボをするなど、お互い関係性を持っていく、クロスすることが重要になると思いますし、交流が生まれるきっかけ・仕掛け作りを何を使ってやっていくか、そのようなことを共有しながら進めていこうと考えております。

【事務局】

甲賀市は言語および情報コミュニケーション促進条例ができたということでこの周知につきましても障がい福祉課からパンフレットを作っていただいております。直近で民生委員理事会や、町単位民協でも説明をさせていただいております。ただ差別解消法や、合理的配慮の啓発もあり、障がい福祉課にはこういう意見が出たということを伝えさせていただきます。また区長会と皆さんが集まるときに、啓発は必要かと感じております。

【委員】

アンケートの取りまとめ、非常に興味をもって聞かせていただきました。QRコードを使ったアンケートという、手軽さという面で若者たちの意見を一番拾いやすいのかなということは理解いたしました。

質問になりますが、例えば10代20代の若者が自分たちの地域の中で何を一番の課題としているのか、あるいはそのような課題を目の前にして自分たちの興味関心がどこにあるのか、クロスした集計結果があれば参考にお聞かせください。例えば自分の身近な問題はピックアップしているが、10代20代の興味関心ごとが身元保証や8050問題など、年代とは別のところでもとても興味関心を持っているということが明らかになるのであれば、少なくとも私が想像している今の子供と若者たちの姿とはかけ離れるわけで、それが明らかになってくると、これから何をしようかといった参考になるので教えてください。

【事務局】

今はまだクロス集計はできておりません。10代の若者がどこに興味関心があるのかは集計をしたいと思っていますし、あらかじめこちらが用意した10項目だけではなくて「その他」という記載もありますし、ここにはない生きづらさ困りごとについてもしっかりと拾って集計し、お示しをしたいと考えております。

【会長】

それでは本日用意しました議題はすべて終了ということになります。委員の皆様にはいろいろな立場からご意見をいただきました。議事の円滑にご協力いただきました。

【会長】



2点思ったことを言いますと、1点は双方間の縦割りから横の繋がりが難しいということですが、今回の「つながり」と「つくる」という、住民の方々につながって居場所をつくるという発想を提案されているわけですから、そういう意味で、庁舎内の人たちがインフォーマルに集まれる居場所を作ってご自分たち自身がそういう体制を示していくことが、住民との同じ目線に立っていることなのかと思い、そういったことも考えていかれたらいいのではないかと思います。

もう1点は私ごとになりますが、社会福祉の中心になる学生たちの実習と私のゼミの目標は、実習で教えてもらうことを目標とするのではなく、実習施設に何かを残してくるということを最高の目標にしています。今年2人の学生が残してきたことです。高齢者のひきこもりの方についてですが、同じ施設にしながら一切グループ活動に出ないで1人でポツンとしている方がおられて、職員の方がずっと誘っても来られなかったのです。学生がその方の経歴をいろいろ調べたら、昔、左官さんをしていたという事が分かりました。そこからの発想が大事なのですが、左官屋で終わるのではなく、左官をしていたのならどうしたらいいだろうと思ったときに、施設の中でケーキを作るのはどうか、左官さんが壁を塗るならケーキも塗るのではないかとということで、ケーキを作る活動をするということで誘ったら来られたんですね。施設に入って初めてのグループ活動。ケーキを塗ってもらったらそれがすごく綺麗。当然皆さんが「すごい」という言葉を掛けるわけです。するとそれから活動に参加されるようになったということです。

基本的なことでアメリカでもどこでもあるのですが、要するに問題がある人無い人に関わらず、人間というのは皆さん方もそうですが、自分の役割があって、周りからそれを認められることが大切です。ひきこもりの方はそれができていないので、そういうところからのアプローチを考えていただきたいなということを参考までに。それでは事務局にお返しします。

#### 【事務局】

委員の皆様には長時間にわたる審議会の中で多くのご意見をいただきありがとうございました。いただいたご意見につきましては事務局で整理をさせていただき、計画の推進に反映をさせていただきたいと思います。

それでは本日の審議会の閉会にあたりまして、副会長からご挨拶をいただきます。

#### 4 副会長挨拶

#### 【事務局】

事務局から御連絡がございます。委員の皆様には、令和3年4月1日から令和5年の3月31日までの2年間を任期として委員を委嘱させていただきました。特別な事情がないかぎり、本日の審議会が最後の活動となります。この2年間、多大なご協力を賜り、心より感

謝申し上げます。ありがとうございました。また、来年度からの２年間の委員職につきましては、改めて各委員様に委嘱等のお願いをさせていただきたいと思いますのでその節はどうぞよろしくお願い致します。本日は誠にありがとうございました。どうかお気をつけてお帰りください。

## 5 閉会